



東地中海地域ニュース

パレスチナ：訪仏中のアムロ PA 外務長官の発言 (4月3日付「ル・モンド」紙)

1. (質問：仏及び欧州には、政治的支援と財政的支援のいずれを期待するか?) 双方である。我々自身は、イスラエルの承認及び暴力放棄を含む国際社会の条件に対しほぼ完全に回答したと考える。PA 内閣は、PLO・イスラエル間の合意遵守をコミットしている。これは第一には両者間の相互承認書簡であり、第二には暴力の放棄と交渉による解決策を見出す約束を含むオスロ合意である。PA 内閣はハマスのものでも、ファタハのものでもない。
2. (依然としてハニヤ首相のイスラエル承認明言を待つ国も多いが?) ハニヤ首相はハマスに属し、ハマスはイスラエルを承認していないが、ハマスの綱領と新内閣のプログラムを区別せねばならない。欧州・パレスチナ間の完全なる関係改善に影響力を行使可能な仏には大きく期待している。
3. (アラブ連盟首脳会議で再表明された和平イニシアティブはロード・マップに取って代わることが出来るか?) ロード・マップには多くの欠陥がある。アラブ・イニシアティブは、和平プロセスの結末とメカニズムが明快で、迅速に対応でき、このイニシアティブの方が魅力的だと思う。アラブ諸国は真剣であり、イスラエルの交渉に対応する準備がある。今日の問題は、イスラエルの方がパレスチナ人及びアラブ諸国と最終的地位交渉に臨む準備がないことである。
4. (ハマスに対する評価は? 又、ハマスは変化しうるか?) ハマスの変化に感心している。1年前なら、ハマスは1967年の国境線内にあるパレスチナ国家を受け入れなかったであろうし、PLO が公式な唯一の交渉資格のある代表とは受け入れなかったであろう。今日、ハマスは国際的決議やアラブの決議を認めている。この1年間の変化の速度に鑑みると、ハマスには進化する用意があると考えられる。ハマスは政治のルールを理解し、システムの当事者になるための対価を払う用意がある。ハマスは後退することも出来たであろうが、そうしなかった。
5. (この態度は、ファタハを排除するための策略ではないのか?) ハマスもファタハも、政治的にも暴力によっても一方を排除できないであろう。最近の対立は結局、両者を権力分担システムと妥協に導いた。この対立で両者とも多くを失った。問題は依然残るだろうが、自分は暴力が再燃するとは思わない。挙国一致内閣に対する外部の肯定的回答が、更に現地での状況の改善に資するであろう。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799